



全国 ICT 教育首長サミット 日本 ICT 教育アワード

東京都立産業貿易センター 浜松町館

令和 7 年 1 月 17 日

全国 I C T 教育首長協議会

全国 ICT 教育首長サミット

プログラム

全国の先進的 ICT 教育の実践事例発表（10：00～）

発表自治体 ・愛知県春日井市・茨城県つくば市・富山県朝日町・大阪府枚方市

講演「令和の教育改革の深化にむけて～次期教育課程を念頭に取り組むべきこと～」（11：00～）

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤久慶氏

講演「GIGA 端末の処分に関する国の方針～端末更新に向けて自治体で備えておくべき事とは～」

（11：30～）

環境省環境再生・資源循環局総務課 資源循環ビジネス推進室室長 河田陽平氏

先進 ICT 機器企業展示見学 GIGA 第 2 期向け ICT 機器がご覧いただけます（11：40～）

開会行事（13：00～）

会長挨拶（多久市長 横尾俊彦）

来賓挨拶（文部科学省、総務省、経済産業省、デジタル庁）

第 7 回 日本 ICT 教育アワード表彰

表彰（文部科学大臣賞）

愛知県春日井市

（総務大臣賞）

茨城県つくば市

（経済産業大臣賞）

富山県朝日町

（デジタル大臣賞）

大阪府枚方市

（協議会会長賞）

岐阜県恵那市・愛媛県四国中央市・鹿児島県垂水市

（日本視聴覚教育協会会長賞） 鹿児島県鹿児島市

（日本 ICT 教育アワード審査委員会特別賞） 東京都渋谷区・長崎県西海市

（協議会優秀賞） 埼玉県久喜市・岐阜県岐阜市・島根県美郷町

審査報告（審査委員長 大久保 昇 一般財団法人日本視聴覚教育協会会長）

先進 ICT 機器企業展示見学 GIGA 第 2 期向け ICT 機器がご覧いただけます

講演「講演「GIGA スクール構想が拓く教育の未来」（14：30～）

文部科学省初等中等教育局学習情報基盤・教材課長 寺島史朗氏

全国 ICT 教育首長サミット（15：00～）

「日本 ICT 教育アワード受賞自治体によるシンポジウム」

登壇自治体 ・愛知県春日井市・茨城県つくば市・富山県朝日町・大阪府枚方市

・岐阜県恵那市・愛媛県四国中央市・鹿児島県垂水市

・鹿児島県鹿児島市・東京都渋谷区・長崎県西海市・埼玉県久喜市



日本 ICT 教育アワード

受賞自治体

文部科学大臣賞

愛知県春日井市

自ら学び続ける教師&働き方改革

～「受ける」だけの研修は物足りない。これからは「体験×活かす」研修～

■基本情報

首長	石黒 直樹
教育長	兒島 靖
人口	306,541 人
公立学校数	小学校 38 校、中学校 16 校
児童生徒数	小学校 16,083 人、中学校 8,303 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / Chrome OS ネットワーク / 普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可 大型提示装置導入状況 / すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ / プロジェクター型

■ICT教育の特色

春日井市では、生涯にわたって自ら学び続ける児童生徒の育成と共に、教師自身も学び続けることを目指している。探究の学習過程を教師自身も学ぶことで、授業力と共に自ら学び続ける力を身に付けている。教員研修は、1人1台端末とクラウドを活用し、探究の学習過程に沿って行っている。クラウド環境を校務で活用しているため、操作研修はほぼ行わず、活用体験から活用方法を学んでいる。つまり、授業と同じ環境・同じ学び方で、模擬授業や授業イメージに近い体験型の研修を行っている。そのため、研修で習得する内容は講座や経験によって異なるが、学び方をすぐ授業や自分自身の学びに「活かす」ことができる。さらに、研修内容と共に学び方を学ぶことで時間短縮につながる。クラウドを活用した「非同期・分散型」で行う研修もある。例えば、情報教育部会や校内研修をはじめとする市内の多くのチャットスペースで、日々の実践や学びを発信しあっている。「非同期・分散型」研修が、日常的に学ぶ教師の学びの場となっている。このように、「体験×活かす」研修で、「自ら学び続ける教師」を目指すとともに「働き方改革」にもつなげている。

未来を切り拓く力を育むつくば教育 DX

■基本情報	
首長	五十嵐 立青
教育長	森田 充
人口	257,786 人
公立学校数	小学校 32 校、中学校 14 校、義務教育学校 4 校
児童生徒数	小学校 16,279 人、中学校 6,627 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / Windows ネットワーク / ローカルブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況 / すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ / タッチパネル型
■ICT教育の特色	
つくば市は、日本で初めてコンピュータを教育に導入し、研究を重ねてきた。育みたい力を「つくば21世紀型能力」に整理し多様な取組を進めている。2023年には、生成AIと向き合う学びを全校展開し、「e Learning アワード」にて文部科学大臣賞を受賞した。 本市独自の「つくばスタイル科」では、クラウドや生成AI、プログラミング等のICTを活用した探究学習を展開し、自ら探究し自律した学習者を育てている。家庭学習の手引きを配付したり、市内研究所等を巡るデジタルラリーを開催したり、学校と家庭をシームレスにつなぎ、探究の質を高めている。児童生徒の探究学習は、複数年にまたがり追究したり、論文を書き、学会で発表したりする姿が見られる。全校に「校内フリースクール」も設置し、個に寄り添った支援に注力している。児童生徒は、AI教材で学んだり、オンラインやメタバース上で対話をしたり、自分のペースで学んでいる。校務DXも進み、クラウドでの資料共有やAIを活用した文書作成や要約、分析等が、よりよい授業づくりや学校づくりにつながっている。このような市全体の教育DXの推進こそが、未来を切り拓く児童生徒を育むと期待している。	

「生成 AI を活用した情報活用能力の育成」
～産・官・学の連携による教育 DX の推進～

■基本情報

首長	笹原 靖直
教育長	木村 博明
人口	10,451 人
公立学校数	小学校 2 校、中学校 1 校
児童生徒数	小学校 355 人、中学校 203 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / Windows、iPadOS、iOS ネットワーク / LTE、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可、ローカルブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況 / 普通教室のみ設置 大型提示装置タイプ / プロジェクター型、タッチパネル型、モニター型

■ICT教育の特色

朝日町の小中学校は令和 5 年度に文部科学省「リーディング DX スクール事業」の指定校に、令和 6 年度には「生成 AI パイロット校」にも指定された。初年度は ICT を活用した授業改善と業務改善の一体的推進について情報発信し、全国への横展開を図った。

今年度は児童生徒の情報活用能力の育成を図るため、朝日町とつくば市、富山大学、大手通信会社の「産・官・学」が連携し、授業での生成 AI の有効活用に焦点を当てて研究を進めた。

特に成果を上げたのは、中学校の外国語科における「聞くこと・話すこと」の領域に着目した生成 AI の活用である。7 月に実施した公開授業では、生成 AI を搭載した人型ロボットと学習端末内のバーチャルロボットを用い、生徒は自分の目的に合った使い方で英会話を繰り返し練習した。授業後のアンケートでは、7 割以上の生徒が「必要な情報を聞き取ること」「即興で話すこと」ができるようになったと回答した。

今後、町では授業だけでなく業務改善においても生成 AI を有効活用し、その知見を広く全国に発信していきたい。そして教育 DX をさらに推進し、新しい時代をたくましく生きる児童生徒の育成に努める所存である。

デジタル大臣賞

大阪府枚方市

円滑な1人1台更新に向けた取組

～子ども、保護者、教職員、民間、専門家の意見から必要な機器等を考える～

■基本情報

首長	伏見 隆
教育長	谷元 紀之
人口	392,816 人
公立学校数	小学校 44 校、中学校 19 校、
児童生徒数	小学校 18,998 人、中学校 9,677 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS/iPadOS、iOS ネットワーク/校内光ファイバー、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可、ローカルブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況/すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ/プロジェクター型、モニター型

■ICT教育の特色

本市では、国の GIGA スクール構想に伴い1人1台端末を5年間の賃貸借契約により令和2年度に導入した。令和7年度に順次、賃貸借契約期間が終了となることから、子どもたちの学びに支障がないよう1人1台端末の更新を滞りなく進めるために、令和5年度より意見聴取会を設置した。意見聴取会委員は、授業改善及び情報通信技術に関する専門家、不登校支援、支援教育に関する専門家、市立小中学校教職員（管理職及び教諭）で構成され、1年間で計9回の聴取会を実施した。子どもたちが1人1台端末を文房具として活用するために、本市の教育理念（「夢と志を持ち、可能性に挑戦する『枚方のこども』の育成」）の実現に向けての方策、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、情報活用能力の向上等、様々な観点に基づいて、委員同士で議論を行った。また、令和2年度より毎年、児童生徒及び保護者を対象としたアンケート調査を実施している。その中で出た意見（端末及びキーボードケースの重量やストレージ容量等）については意見聴取会の中でも議論し、次期端末更新に生かしている。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

岐阜県恵那市

主体的に学び続ける児童生徒を支える学校内外の包括的な ICT 教育の推進

■ ICT教育の特色

恵那市では、目指す児童生徒の姿「主体的に深く学ぶ子（自立した学習者）」の実現に向けた ICT の効果的な活用を推進している。今年度より『恵那市立小中学校 ICT 活用推進方針』を定め、悉皆研修等で各役職を踏まえた活用を考えることや、様々な形で情報発信をすることで、共通理解を図ってきた。また、よりよい実践ができるよう ICT 環境を整えてきた。特に、AI ドリルアプリについては家庭との連携が図れるよう配付資料等の作成も行った。さらに、参考となる授業参考資料や、授業で活用できる DX 教材の整備等、様々な ICT 環境を改善してきた。さらに、昨年度より設置された「ICT 教育らば」を拠点とし、ドローンやロボット等を活用したプログラミング学習等「学校内外問わない STEAM 教育の提供」の充実を行ってきた。

また、今年度は、令和5年度 第6回 ICT アワード優秀賞を受賞したことを受け、岐阜県市町村等 GIGA スクール構想推進部会において、実践発表を行った。また、文部科学省のホームページにも実践が紹介されている。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

愛媛県四国中央市

四国の中央からはじまる未来への挑戦 ～大学・企業・地域、外の風と共振する子ども主体の深い学び～

■ ICT教育の特色

ICT 教育推進プロジェクト GIGA しこちゅ～を立ち上げ、大学や企業との連携を積極的に図るなど、多角的な取組を進めてきた。そして現在、GIGA スクール構想を進化させた四国中央市 Find Your Dreams. 構想に基づき、次の GIGA に向けて歩み始めている。全教職員がデジタルとアナログのベストミックスによる個別最適化された学びと、協働的な学びの創出に系統的に取り組み、研修を通じたスキルアップを行いながら質の高い授業への転換を図っている。大学と共催するプログラミング大会は、学生が開催費用を調達、市内の全中学校が出場し、好成績を収めた。また、企業からの寄附を活用し、VR 体験を含めたイベントを開催した。本取組を発展させ、体育等での VR 活用に繋げた。電子図書館の一層の充実を図るため、今年度蔵書充実のための寄附を受け、児童・生徒、保護者が選書を行い、1人1台端末の活用を広げた。本市の子どもたちの学びを大学、企業、地域と共振することで ICT の活用が進み、さらに継続的に充実した取組へ進化することで、郷土愛を醸成しながらデジタル人材を育成し、将来地元企業活躍・貢献できるまちづくりの取組へ発展している。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

鹿児島県垂水市

GIGA スクールのまち垂水「交流」と「発信」「未来の垂水を語る」 小中学生からの提案・発信

■ ICT教育の特色

本市の各学校では児童生徒が主体となる授業改善に努めており、自由進度学習や予習型反転学習、「ふるさと垂水のよさ」を「発信」する創造的な活動を行っている。また、小規模校における複式学級の単式化を図る遠隔合同授業による「交流」にも継続的に取り組んでいる。

今年度は第6次総合計画兼第3期総合戦略の策定に係る自分の住むまち「垂水」の将来像について、学校ごとに地域の実態に応じたテーマを設け動画を作成し、市総合開発審議会へ提案するなど、まちづくりに子供の意見を取り入れるために、すべての小中学校でICT機器を活用した。さらに、作成した動画は他の学校で視聴できるようにクラウド上で共有し、動画に対する質問を共有ノートにそれぞれ入力し、全ての学校をオンラインでつないだ遠隔合同授業で質疑・応答を行うなど、動画作成や発表における新たな視点を得られる活動とした。教育委員会主催事業としては、ICTジュニアリーダー育成講座を年間5回新規に設定し、プログラミング教育やメタバース体験など、先進技術を体験できるようにし、全教職員を対象にしたICTに関する研修会を夏季休業中に4年連続で終日開催し教職員のスキルアップを図った。

一般財団法人日本視聴覚教育協会会長賞

鹿児島県鹿児島市

デジタルで目指す！誰もがよりよく学べるまちへ

■ ICT教育の特色

鹿児島市ではDX推進計画を策定し、「ICTで住みよいまち推進」を重点プロジェクトとして市全体で様々な施策に取り組んでいる。教育分野では、タブレット端末を活用して、どのような環境にあったとしても、すべての子供たちが、学校だけでなく家庭や学校外の学びに至るまでシームレスに等しく学ぶことができる環境づくりを図るため以下の取組を行っている。○タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習の充実とWi-Fi環境の無い家庭へ、通信機能を有したモバイルルータの貸出○学校外でも利用できるAI型デジタルドリルや市立図書館の電子図書、デジタル・シティズンシップ、プログラミング教材等の整備○放課後児童クラブにおいてタブレット端末を活用した学習を可能にする無線Wi-Fiルータの設置○欠席連絡や保護者への連絡・お便りに加え、子どもの学習ログを、保護者がスマートフォンから確認できるシステムの導入○不登校等の児童生徒の自立を支援するため、メタバースを活用した相談活動や学習支援等の実施○情報活用能力の育成を目指したデジタルプレゼン、タイピング、CG等の未来型デジタルスキルコンクールの実施等。

日本ICT教育アワード審査委員会特別賞

東京都渋谷区

「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」プロジェクトの推進

■ ICT教育の特色

区長策定の教育大綱「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」に向けて、午後の時間全てを当てる探究「シブヤ未来科」を創設した。250社近い企業と連携し、創造力、挑戦力を大切にした主体的な学びの開始である。心配された学校負担は大幅な軽減が期待できる。PTA有志が設立したシブタン（一社）が企業連携のコーディネートを担うからだ（R6経済産業省「未来の教室」実証採択）。

探究の礎となるのがICT環境である。データ収集や整理分析等の探究プロセスでの活用に加え、自己肯定感や自己調整力を高めるため、区独自の振り返りツール「HACHI アプリ」を開発。ダッシュボードで可視化された非認知的な能力の変容を子供自身が見つけ、教員は適切な支援に役立てられる。また、区が提供する生成AIは既に1/3の教員が活用し、校務効率化・質向上が進んでいる。

成果として、多様な人達と協働して、地域や社会に積極的にアクションした事例、不登校傾向の生徒が登校した事例等が報告され始めている。また、視察（34件）、取材に加え、EDIX、全国ICT教育首長協議会での登壇や日本経済新聞の映像ニュースの掲載等、成果が広く認められつつある。

日本ICT教育アワード審査委員会特別賞

長崎県西海市

「メタバースを活用した放課後オンライン学習会の実践」 ～アバターになった子供たちとの2年間の歩み～

■ ICT教育の特色

九州の西端に位置する長崎県西海市。人口は、約2万3000人。自然豊かなこのまちの教育課題は「学力向上」である。特に、放課後の家庭学習を充実させることが必要不可欠な状況となっている。

そこで、昨年度、本市の強みと自負しているICT教育の土台を生かし、民間企業と連携して「メタバースを活用した放課後オンライン学習会」を実施した。開始当初は、システムに不具合が生じたり、受講者数が伸び悩んだりするなどの課題が山積していたが、各学校との連携を深めることで、子供の新たな学びの場として定着させることができた。何より、受講者の学力が劇的に伸びたことは大きな驚きであった。

そして、今年度は、対象学年を拡大したり、テキストの有料化に踏み切ったりするなど、更なる取組の充実に向けた改善を加え、現在に至る。

今後も地理的な制限を抱える子供たちの学びの場をつくるために、市長、教育長のリーダーシップのもと、取組を推進していく。

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

埼玉県久喜市

「久喜市版未来の教室」実現に向けた教育 DX の推進
～学びを共創し未来を拓く力を育む久喜市の教育～

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

岐阜県岐阜市

小規模校つながるプロジェクト
～岐阜市の小規模3校が学校の垣根を越えて行うオンライン×リアル
の学び～

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

島根県美郷町

タブレット活用教育その先へ

■アワード基本情報の回答より（自治体数 65 自治体） (%)

GIGA スクール端末導入状況（1 つ選択）

2020 年度以降に小中学校 1 人 1 台端末導入済み	15.4
2019 年度以前に小中学校 1 人 1 台端末導入済み	84.6
その他（一部導入できていない学年がある）	0

児童生徒用端末 OS（複数回答可）

Windows	35.4
Chrome OS	44.6
iPadOS、iOS	38.5

校内ネットワーク（複数回答可）

普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可	32.3
校内光ファイバー	18.5
ローカルブレイクアウト導入	76.9
LTE	1.5
普通教室のみ接続可	33.8
アクセスポイント未整備のため、持ち運びアクセスポイント導入	0.0

大型提示装置導入状況（1 つ選択）

すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置	55.4
普通教室のみ設置	33.8
学校数台程度設置	6.2
学年半分程度設置	3.1
未導入	1.5

大型提示装置の形状（複数回答可）

モニター型	32.3
タッチパネル型	55.4
プロジェクター型	52.3

ICT 教育整備計画・教育計画の有無（1 つ選択）

ある	52.3
ない	20.0
作成中	27.7

ICT 教育の特色（複数回答可）

首長のリーダーシップ	33.8
GIGA スクール構想以前より 1 人 1 台端末整備	18.5
高速ネットワーク整備	30.8
LTE	13.8
全教室大型提示装置	46.2
校務支援ソフト	46.2
遠隔教育	27.7
学習者用デジタル教科書	38.5
教育水準の向上	30.8
学力向上	40.0
創造的・独創的な教育 DX	18.5
Society5.0 時代に必要 21 世紀型スキルの育成	21.5
アクティブ・ラーニング、協働学習	32.3
個別最適化学習	41.5
プログラミング教育	35.4
STEAM 教育	21.5
問題解決学習、SDGs での ICT 活用	20.0
魅力あるまちづくりの実現	21.5
教員研修などの取組	43.1
企業連携・地域連携	24.6
クラウド活用	44.6
情報セキュリティ対策	21.5
その他	7.7

首長の役割（複数回答可）

積極的にリーダーシップを発揮した	33.8
予算獲得に貢献した	29.2
教育長とともに総合教育計画や整備計画を立案した	10.8
周辺の自治体との連携を図った	9.2
住民に対して積極的に ICT 教育の意義を説明した	15.4
その他	3.1

